

第2回湖西市立学校教育施設適正化検討委員会記録 概要

- 1 日 時 令和3年8月2日(月) 14時00分～15時55分
- 2 場 所 湖西市役所 市長公室
- 3 出席者 島田桂吾、袴田雄司、疋田貴之、板倉福男、鈴木誓子、杉浦よしみ、西川睦弘、黒柳孝江、新美留美、鈴木聖慈

4 概 要

市内11校の将来推計として、大規模校が標準に、小規模校がより人数が少なくなることを確認した。また、日本の学級編制及び教職員定数の昭和34年からの経緯や、小・中学校の1学級あたりの人数の推移などの特徴について委員長から説明があり、学級数や1学級における人数についての推移を共通理解した。教員対象に実施したアンケート結果である学校規模におけるメリット・デメリットについて、協議し、市内の学校の現状について把握を行った。また、保護者、地域、教員を対象とするアンケートの内容、実施方法について協議し、第3回までにアンケートを実施し、協議のための資料とすることが確認された。

5 協議における主な意見

(1) 学校規模におけるメリット・デメリットについて

① 小規模校について

- ・子ども、教職員に共通するメリットで、子どもの活躍の機会が多いこと。教職員については、全職員で子どもを見ていくことができること、こういったことがよさだと思う。学校施設が十分に使えるよさもある。デメリットという点では教員にとって一人ひとりの分掌が多く、業務が大変であるという意見も出ている。
- ・保護者間のつながりが強い。お互いの家族構成を知っているから、配慮して、次のPTA役員は外そうとか、保護者間の縦横のつながりは強いことはメリットの一つだと思う。
- ・親のつながりが直接子どものつながりに関係しやすいともいえると思う。これは、小規模校のメリットでもあり、デメリットでもあるのではないか。
- ・デメリットの人間関係の固定化という点では、ほとんど全ての学校が意見としてあげている。それを改善するための取組みとして、異学年交流や地域との連携を行っている。デメリットをカバーする仕組みとして、教育課程の内外で、手立てを工夫しながら人間関係の固定化を防いでいることが分かる。
- ・教員のデメリットとして分掌が多い、出張が多いことが挙げられているが、1人の先生が学校全体を見ることができるので、学校の課題だとか地域が進む方向性だとかの理解については比較的しやすい。大規模校で自分の授業でいっぱい、地域だとか学校全体のことはよく分からない場合もあるので、そういう意味で、メリット・デメリットの裏返しがあると思う。

② 大規模校について

- ・施設に余裕がないということで多様な学びを用意したいと思っても、それができないというところがある。
- ・PTAの地区役員を決めようとするときに、どのお宅に何年生の子がいるのか、兄弟がどれぐらいいるのかがわからない。今は個人情報保護もあって、それぞれの家庭の様子がわからないという問題も起こっている。

- ・PTA 役員の最大の仕事は、次の役員を決めることと言われるぐらい役員がなかなか決まらない。そうなってくると同級生だったり、後輩だったりに声をかけてお願いをしていく。本当は小規模校のように、色々な方に役をやっていただくとよいと思う。親がやっている姿を子供に見せることも教育かと思う。大規模校だと、全員の保護者を知っているわけではないので、知っている方達に声をかける形になっていく。次の役員を決めるということが PTA 活動では、つらい部分になっている。
- ・小学校、中学校に限らず幼稚園も同じような傾向がある。選挙したところ、当たってしまったら受けられませんという方がいて、PTA 役員が決まらないこともある。
- ・子どものうちから、親が PTA 活動に参加する様子を見て育てば、将来、自分が親になった時に、子どものために PTA 活動をやっていくという気持ちが育つのではないか。
- ・子ども達が自分だけでなく、地域のことも含めて、他人のことも大切なものであると感じられるような環境を教育の中で盛り込むことができると 10 年後、20 年後の PTA 活動や自治会などの活動に進んで参加できるような人が育ってくるかもしれない。

(2) アンケートについて

- ・問 3 の通わせたい学校について、自分が学校を選ぶことができるのかという受け取りをする方も出てくると思う。どの校区にも行けるかと思われて、問い合わせが増えそう。文言を変えた方がよい。
- ・問 3 の設備が整った学校は、抽象的すぎてしまって、答えにくい。主観によって整っていると思う人もいるかもしれないし、思わないかもしれない。客観的に見て、分かるような文言に変えるか、項目を分けるかした方がよい。
- ・ハード面の項目は、すっぱり削ってよいと思う。手段のようなものなので、今回のアンケートでは聞かなくてよいと思う。
- ・問 12 の 1 学級で最低何人以上必要かについては、5 人刻みだとピンとこない。個人的には、10 人刻みくらいだと考えやすい。20 人と 25 人の差があまりピンとこない。
- ・同じ項目にしているのは、属性が違ったときに、どういう共通点と相違点があるのか、比べることが今回の調査の特徴だと思う。同じ項目にそろえておいた方が良さだろう。出てきたものを、まとめることは簡単で、5 人、10 人だったらまとめて 10 人とすることができる。細かい方が作る側からすると加工がしやすい。それによって回答者の方がストレスを感じるのであれば、もう少し簡易な方がよい。
- ・問 4 で、学年、学級、全員で協力しやすいは、イメージがとらえにくい。メリットでいうと小規模校は、他学年との交流であるとか、学校全体での交流があるというのが入っても良いと思う。
- ・必須項目は設定することができるので、最低限、答えていただくところを絞って、実施した方が回答しやすいと思う。
- ・統計的に何かを明らかにしようとする調査ではないので、母集団から何割ということとはしなくてもよいと思う。回答がしやすい方に聞いているかという点で判断すればよい。
- ・問 14 は小学校 6 年生や中学校 3 年生の場合は、卒業してしまうので、気にならないけれど、小学校 6 年生の場合には中学校のことが気になるのではないかと思う。全部、回答しなくても済むようにすれば聞いてもよいと思う。逆に無回答も 1 つの意見だと思う。